

令和2年度 第1回土佐清水市総合振興計画等検討会議 概要

日 時：令和2年11月12日（木） 13時30分～16時10分

場 所：土佐清水市役所 3階 議会会議室

出席者：別紙のとおり

説明者：農林水産課、観光商工課、企画財政課、健康推進課、こども未来課、生涯学習課、国立公園*ジオパーク推進課

事務局：企画財政課長 横山英幸、企画財政課長補佐 池正澄、政策企画係長 新谷麻子、主事 山崎立志

会議概要（要約）

【会議次第】

1. 開会

2. 委員自己紹介

3. 委員長選出・挨拶

委員長（地域活性化グループ いそあらし 久保 卓也氏）

副委員（土佐清水市観光協会 土居 京一氏）

4. 議事

①土佐清水市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

■第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和元年度取組の実績

■第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和2年度取組状況中間報告

○農林水産課より資料を基に説明

・第1期総合戦略の指標は初めての試みでもあり、高知県版の指標をベースに多くの指標を設定していたが、第2期総合戦略では大幅な見直しをしている。

【質疑・意見交換内容（要旨）】

・特になし

○観光商工課より資料を基に説明

【質疑・意見交換内容（要旨）】

（酒井委員）

・12ページの唐人駐場について実施場所について。

（観光商工課長）

・園地の海側、トイレや水道がある場所となる。

（酒井委員）

・その場合に、園地の中に道路をつくるのか。

(観光商工課長)

- 貸す場所は駐車場から海を向いての南の方となる。個人の土地を買って侵入道とするために造成している。

(酒井委員)

- 唐人駄場へ行くには、旧スカイラインを通っていくようになると思うが、どうだろうか。
バスの場合はスカイラインを通ると思うが、今はスカイラインを車両が通らないので木が茂ってるのではないか。大型バスで行く場合、下から(松尾地区から)は大型バスでは行くことは無理である。

(観光商工課長)

- それは課題である。お客さんが来てもらうようなときになったら、対策をする必要があると思っている。

(岡村委員)

- 国の政府目標でインバウンドの指標で、2020年が6,000万人となっている。もうすでに3,000万人は超えており、4,000万人の目標へむけて進んでいるのではないか。
- 情報提供だが、我々も台湾の大学と連携を強めており、2018年が台湾の地方創生元年で日本と同じように地方創生を進め、都市部一極集中を是正するために今地方創生を始めている。日本と同様に大学を拠点とし、台湾大学など大手大学、日本でいう東京大学のようなところは関わっていないが、地方の国立大学などが学生と地域の交流をやっている。

コロナがなければ、12月に台日大学連盟を発足予定であったが、来年に発足予定となっている。日本側は地方創生をやっている大学、千葉大、信州大、高知大など、台湾は6大学。日本と台湾の学生の交流、ただの留学交流でなく地域との連携というのがテーマになっている。一緒にできることがあればぜひお願いしたい。

- コロナの影響で観光面で良くてたところと悪くてたところについて教えてほしい。端的に言うと、インバウンドは来なくなったことは悪くてたところ、コロナで意外と良い面がでたところなどはあるのか。

(観光商工課長)

- 悪くてたのはインバウンドに限らず、閉鎖もしていたためお客様もびったり止まってしまった。良くてたというのはなかなかない、今国のGOTOも市の独自の施策もあってかなり、個人観光客は増えてきた。コロナのため、大型バスをみんなが敬遠し、しばらくは大型バスがまったく入ってきていなかった状況。先月が今月から団体の方も入ってきている。

観光業者のかたからいろんな対策、本来であればすでにやっておくべきことであったことも、今回のコロナ対策でいろんな設備がたりたり、見直しを図りいいきっかけにはなった。

(岡村委員)

- コロナの悪影響を受けて、実はこのような状況でここが強かったと考える総合戦略の指標・目標・施策について変更についてどのようにかんがえているのか。

(観光商工課長)

- 年度末にこの会があるため、下期に事業を実施し見直しをはかり、この会で変更について諮り目標を変えることはできる。(実情に)合わせていかなければならないと思っているため、予定をしている。

(岡村委員)

- 観光全般は、飲食を含め影響を受けられていると思うが、団体客は無くても個人の車での観光はあったという状況を踏まえ、コロナに対して台風一過で考えるのでなくて、しばらく影響は続く。一度受けた影響を

事業者はしばらく引きつると思う。返済が始まる頃にまたしんどい思いをする。それに対して施策目標の変更をすることは一つのポイントになる。市役所が考えるのではなく、我々が議論することだと思う。

(岡村委員)

・観光客は今、Instagramに強い。飲食店知っていただけていないとおっしゃっていたが、フェイスブックよりは今はInstagram。出発前から情報を与えてあげられるということが強いのではないか。実際、他の団体でやっているところがありよく見るが、大岐の浜はすごく強い。SATOUMI はハッシュタグで1000から1500ほど、大岐の浜は5000を超える、コロナの中でもサーファーやキャンパーは経済に貢献してくれそうな感じがあるので、そのへんのアプローチなどは土佐清水が得意とすることではないかなと思う。

(観光商工課長)

・よかったということではないが、高知県がコロナの発生数が少ないということもあるとは思いますが、特に清水は自然が豊富なのでその安心感でお客さんも選んで来てくれているのではないかなと思う。来年度のことになるが、そんな発信方法も考えていこうと思っている。

キャンプについても、最近のスノーピークのお客さんは以前はリピーター・会員さんがほとんどであったようだが、最近は新規のキャンプを始めてするような人がかなり増えたと聞いている。この時期、安心などいけば外でのキャンプということと思うので、そのへんに力をいれてやろうということはある。

○企画財政課より資料を基に説明

【質疑・意見交換内容(要旨)】

(田中慎太郎委員)

・空き家について、貸したいとおもったらどのようにすればいいのか、空き家に荷物がいろいろあるとか、また修繕が必要な場合などは、お金とか支援してくれるのか。そういうことに(改修など)、Wi-Fi 設備補助とかあればワーケーションなどにも活用できるのではないかな。

来た人はどのような仕事についているのか。

(企画財政課長)

・空き家バンクについては、地域支援係の方に声をかけてもらえれば、物件の方を調査しに行く。間取りなど見せてもらい、家賃の設定のヒアリングをし提供できる状況が整えば市のHPへアップをする。

改修・処理費については、市や県の補助制度を利用することができる。Wi-Fi の設備についても改修費用となる。

移住者の就職先については、いろいろであり、個人で店を出すひとや病院、足摺のホテルなどとなっている。

(田中慎太郎委員)

・移住者が来るという情報は採用したい企業は、こんなかたが仕事を探しているという情報はわかるか。

(企画財政課長)

・企画財政課に移住希望の人が来て、空き家の紹介であるとかの市内の情報提供を行う。就職・雇用先の話がでると、観光商工課からも話があったように、雇用相談員につないで市内の求人の情報提供を行っている。

○健康推進課より資料を基に説明

【質疑・意見交換内容（要旨）】

（畠中委員）

- ・妊娠 11 週以下での届出ということだが、行政として手立てが打てるものなのか。

（健康推進課長）

・第 1 子目のお母さんで届出が遅くなった方がいても、届出したあとの母子の体のためになるというお話を
して、次の妊娠の時に早めに届出してくれるということにつながっているため、大切なことであると思っ
ている。

また、9 月末時点で 12 週以降に届出した方は切迫流産などの心配により遅くなったという状況であり、
その後のケアもしている。妊娠の無料の健診を現在は 14 回受けれる。届出が遅れたら 14 回全部受けれな
くなるため、11 週くらいまでには届出していただきたい状況である。

（岡村委員）

・虫歯 3 本前後という数値は、高知県内で見ると多いのか少ないのか。その原因はなにか。フッ素洗口など
幼少期からしていくと比較的少なく抑えられるということを確認しているが、そういう対策が遅れている状
態なのか。

（健康推進課長）

・土佐清水市は虫歯がとても多い。今はすべての学校でフッ素洗口をしているため、ここ数年の取組み状況
は他の市町村に負けたいと思うが、とりかかりが遅かったのか、またよく言われるのは、土佐清水市は味付
けが濃いうちもある。砂糖をたくさん入れる文化で習慣などもあって、虫歯が多いような感じがするが、
どうしてかというはっきりした理由はわからない。

（岡村委員）

- ・今、虫歯が 3 本という状況が来年度で 1 本へ変わるというのはどういうことか。

（健康推進課長）

・1 期での目標を 2.4 本としているが、市の健康づくり推進計画（6 年計画）の中に、目標値を 1 本とし
ているため、整合性をとる必要があったため計画に合わせており、少しでも計画に近づけていこうとしてい
る。ここ 5 年では達成が難しい数値かもしれないが、計画に合わせた数値となっている。

（岡村委員）

・例えば、フッ素洗口の率、人数ベースで数値が取れるのであれば、指標をその率でやってみては。達成で
きない数値を目標において、それを達成できるような施策を打てない場合、創生戦略そのものの意義を問わ
れる可能性がある。現実的な指標に変えていくことも一つの手である。

○こども未来課より資料を基に説明

【質疑・意見交換内容（要旨）】

（岡村委員）

- ・施策 4 確かな学力の定着と自立する力の育成について地方創生の中でしっかり書かれているところはそ
んなに多くないので、素晴らしいことである。

G I G A スクールについて、小中学校のタブレット端末の運用が来年度から始まる。ICT 支援員の整備

についてどのような状況であるか。

(こども未来課長)

支援員の確保について検討をしている。国の制度でも補助があり、実際使う先生方が使いこなして子供に教えられるか課題となっており、検討中で必要とのことで進めている。

(岡村委員)

- コロナでGIGAスクールのことはかなり進んでいる。環境整備のところは予算がありきで進んでいくが、教育現場としてはその(タブレット利用)状況を受け入れられるか戸惑いがある一方で、日本は世界に比べて教育水準が落ちているということに対しての危機感がある。ICTツールを使った教育をするということは、ICTの教育が遅れれば遅れるほど市の1学年全体の教育が他の自治体の教育水準より遅れるという状態になる。ICT支援員の活動は欠かせない。その一方で、都市部ではICT支援員の確保は進んでいて、地方では支援員確保が難しい状況となっている。地方創生の中でICT支援員の確保の指標を入れることで、コミットしていくことで地方創生の意義があるように感じましたので、検討されてはいいかなと思います。

(松村委員)

- 小学校、中学校の全国学力学習調査の平均点が、全国平均を上回るというのは、現在が下回っているということなのか。

(こども未来課長)

- 今年はコロナで実施をしていないが、昨年、小学校は(平均を)上回っているが、中学校はちょっと下回っている。小学校は下回らないように、中学校は平均に近づいていくようにする。

(松村委員)

- このことについては、行政だけでは難しく各学校の先生方や教育委員会事務局と協力してこれに向けての対応策はあるか。

(こども未来課長)

- 自己採点するときに、各学校の課題があがってくるため、各校で取り組んでいる。全体でということはない。

○生涯学習課より資料を基に説明

【質疑・意見交換内容(要旨)】

○国立公園*ジオパーク推進課より資料を基に説明

【質疑・意見交換内容(要旨)】

(松村委員)

- 来年度目指すということは、今年度中に申請をするということなのか。この下半期で認定を目指す取り組みというものは、申請書を作成するという業務になるのか。

(国立公園*ジオパーク推進課長)

- 申請は来年の4月になる。下半期の認定の作業は申請書の作成、推進協議会で決定、その直後の5月にプレゼンテーションとなる。

【全体を通しての質疑・意見交換内容（要旨）】

（松村委員）

・県の産業振興計画の中で、今年はSATOUMIがオープンしており、自然体験型観光実施の中でアンケートを行った。寂しいことになるが、高知からだと窪川で高速をおりて休憩し、そのまま土佐清水市街地にはよらずそのまま（大岐の）林道を通して、SATOUMIへ行く。宿泊もせず、そのまま高知市内へ帰ることができるため宿泊は想定していない。こどもの遊ぶ場もないため、車を止めてお金を使うことがない。お金を使えるシステム作りが必要。行政だけでなくみなさんと一緒にお金が落ちる仕組みを考えたい。また、高知県としても情報発信についても力をいれてやる必要があると感じた。

（岡村委員）

・知り合いの方で毎年沖縄に旅行に行く人がいるが、今年はコロナの影響で土佐清水市へ旅行した。その人の感想が、シンバイザメも見れて水族館もあり、美味しいものも食べられた。そういうアピールの可能性もあるのではないかと。

（松村委員）

・修学旅行にしても、コロナの影響で旅行会社を通さず、高知県内、特に土佐清水市へという事例もあった。修学旅行といえば県外へバスで行くというイメージだったが、それが変わった（県内での修学旅行）ということはコロナのいい面なのかもしれない。この県内修学旅行の流れを続けていきたいと考えている。

②第2期 土佐清水市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

1 ページ、6 ページ、8 ページの指標の項目変更以外は、各課長より説明があった令和元年度の実績に伴う基準値の変更及び、目標値の変更となる。

1 ページは、KPI を長期肥育鳥について商品として出荷する数としていたが、飼育生産する数に変更するもの。生産数については、高知県産業振興計画の幡多地域アクションプランのKPI に合わせた。

6 ページは、令和3年度より予定している、道の駅めじかの里土佐清水の施設整備について、総合戦略に追加するもの。

8 ページは、KPI を出張登録閲覧会の参加者の延べ人数から、マッチングシステム登録者の延べ人数に変更するもの。出張登録閲覧会は年に2回のみ開催で、時間帯が合わないことなどにより、本市での開催の参加者の増加が見込まれない状況である一方で、会員制のマッチングシステムは、利便性もよく、今後、登録者数を増やすことで出会い・結婚の環境づくりを推進することにつながるため、指標の項目を変更することとした。

4. その他

○事務局より

次回は、今年度事業の実績見込み報告に基づく検証等を行うため、2月～3月にかけて開催予定となっている。

【閉会】